

## エイチスリー 第1号



北海道国立大学機構発のスタートアップ企業第1号の認定書を手にする中元社長（右）と岸本教授

### 3 大学運営法人発の新興企業

札幌の介護関連業「さくらコミュニケーションサービス」などが出資し、メディカルフィットネス事業に取り組みエイチスリー（札幌）が、小樽商科大と北見工業大、帯広畜産大を運営する北海

道国立大学機構（帯広）発のスタートアップ（新興企業）第1号に認定された。エイチスリーはさくら社と同機構との共同研究の成果を事業化するため、4月7日に設立された。さくら

社の中元秀昭社長（53）が社長に就き、大学教授や弁護士らが取締役役に名を連ねる。

医療機関とフィットネスクラブ、企業を結び、運動を通じた社員の健康管理を図る。本年度は札幌市内の企業に勤める50人、北見市内の200人を対象にした実証事業を進め、来年度以降は生成AIの活用や自治体との連携も視野に入れる。

認定は7月4日付。昨年4月に3大学が経営統合し、発足した同機構にとって初の認定となる。中元社長は「大学発のスタートアップ企業として健康な社会づくりに向けて貢献したい」と強調。同機構で産学連携を担当する小樽商大の岸本稔教授は「新たなスタートアップやビジネス展開に結びつくよう今後も企業

との共同研究を進めていきたい」と語る。

（竹中達哉）